



創立 10 周年を迎えた技術者継続教育機構

農業農村工学会継続教育部

「公益社団法人 農業農村工学会 技術者継続教育機構（以下「CPD 機構」）」は、平成 14 年 1 月 29 日に「農業土木技術者継続教育機構」として創立し、本年、10 年目となる節目の年を迎えました。

農業農村工学会（以下「当学会」）」では、平成 24 年 12 月 7 日（金）に記念事業として、農業土木会館において感謝状贈呈式を挙行了しました。以下に、「機構設立時の背景」と「感謝状の贈呈」についてお伝えいたします。

1. 10 年前の技術者育成の状況

CPD 機構発足前の技術者育成の状況は、教育現場では平成 3 年の大学教育の大綱化以降、カリキュラムの「自由化」が進み、多くの大学で必修科目が極端に減少し、卒業生の専門基礎能力に対する批判が噴出するようになっていました。また、技術現場としての官公庁、企業側でも、若手技術者の基礎学力・技術力の低下に対する実務者研修が十分でなく、加えて、高度解析技術手法などのプログラムパッケージ化の急速な進展に伴う「技術のブラックボックス化」への対応や、国際競争力に耐えうる技術者育成が大きな課題となっていました。

そのような状況から、我が国では「科学技術創造立国」を目指し、「科学技術基本法」を平成 7 年に制定、平成 12 年には技術士法の改正によって技術士の技術力研鑽が責務とされ、さらに平成 13 年 3 月決定の「第二期科学技術基本計画」の中で「技術者の質を社会的に認証するシステムを整備し、その能力が国際水準に適合していることを保証し、かつ、常に最先端の技術・知見の習得が可能となるよう、学協会、大学等における継続的な教育の充実を図ること。これらにより、技術者教育、技術士等の資格付与、継続的な教育を通じ一貫した技術者の資質と能力の向上を図るシステムの構築を図ること」と定められました。

これらの動きに対し、平成 11 年以降、教育現場には「技術者教育認定制度（JABEE）」が、継続的な再教育には Continuing Professional Development（CPD）活動が、技術者教育における車の両輪として動き始め、当学会では当時の黒田正治、佐藤洋平両会長の指導のもと、JABEE 設立時から幹事学協会として参画するとともに、関係団体の協力を得て、CPD 機構を創立しました。

2. 感謝状の贈呈について

当学会では農業農村工学分野の技術者育成を推進していくことが、分野の将来、及び「科学技術創造立国」となるために重要な活動であると認識しています。このことから、機構設立時から CPD 法人登録者として、技術者育成に尽力をされた 83 団体に対して、CPD 機構 10 周年を期して感謝の意を表することといたしました。

贈呈式当日は、83 団体のうち 9 団体の代表者にご出席いただき、塩沢昌会長の挨拶、岩崎和己機構長の「CPD 機構 10 年の歩み」に引き続き、塩沢会長から各団体の代表者へ感謝状を贈呈いたしました。

CPD 機構の CPD 個人登録者数は、設立当初の 5 千人から現在では 1 万 4 千人強までになりました。これもひとえに多くの方々の継続教育へのご理解と、技術力向上への熱意に支えられてのものと深く感謝しております。今後とも、変わらずご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

